



皆様こんにちは。長崎県副知事の上田でございます。

NASHIMの皆様方には、長年にわたりますご貢献に心から敬意と感謝を申し上げます。

本日は、中村知事からNASHIM設立30周年にあたりましてのご挨拶を預かっておりますので、代読させていただきます。

本日、「NASHIM設立30周年記念シンポジウム」が関係の皆様ご参加のもと、オンラインライブ配信により開催されますことに、心からお祝い申し上げます。

長崎が原子爆弾による惨禍にみまわれ、多くの尊い命が奪われてから今年で77年を迎えますが、今もなお、多くの方々が放射能による後遺症に苦しんでおられます。被爆地長崎では、原爆投下直後から、永井隆先生をはじめ多くの医師の皆様による被爆者の治療が献身的に行われ、多くの研究成果が積み重ねられてきました。その豊富な知見をもとにNASHIMは設立以来30年間、世界各地の放射線被爆者の支援に尽力してこられましたことに改めて敬意を表する次第であります。

また、長崎大学原爆後障害医療研究所の先生方におかれましては、福島第一原発事故の発生に際し、いち早く現地に赴かれ、原爆被爆者医療から得た知識や経験をもとに放射線医療に携わられるとともに、NASHIMとも連携しながら、放射線に関する正しい知識の普及に取り組んでいただきました。加えて、現在、国と協議しております「黒い雨」訴訟を踏まえた審査の指針改正の長崎への対応に関しましても、専門家のお立場からご助言いただいておりますことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

このような中、本日、関係の皆様にご参加いただき、シンポジウムが開催されますことは、誠に意義深いことであり、これを機にNASHIMの活動とヒバクシャ医療に対する理解が更に深まるとともに、長崎から世界への貢献と国際協力がより一層推進されることを期待しております。

県といたしましては、NASHIMの一員として、各構成機関の皆様と力を合わせて、「長崎を最後の被爆地に」との願いを込めて、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界に訴えてまいりたいと考えております。

結びに、開催にご協力いただきました関係の皆様にお礼を申し上げますとともに、NASHIM並びに長崎大学原爆後障害医療研究所のご発展と、本日、ご参加の皆様方のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和4年2月20日 長崎県知事 中村法道

代読でございます。

本日は誠におめでとうございます。